

WEEKLY Rotary 一宮中央RC REPORT



世界に希望を生み出そう

2023～2024年度 RIテーマ

世界に希望を生み出そう

地区方針「培おうプライド、育もうブランド、そして未来へ！！」

THE ROTARY CLUB OF ICHINOMIYA CENTRAL

●創立1990年10月31日 ●承認1990年11月16日 ●事務局 〒491-0858 一宮市栄4丁目6番8号 一宮商工会議所ビル5F
●例会日時 毎週水曜日(PM 6時～7時) TEL 0586-24-1959 FAX 0586-71-4390
●例会場 一宮商工会議所ビル3Fホール E-mail: icrc@alpha.ocn.ne.jp URL: http://www.138crc.com
◇会長 内田泰潤徳 ◇会長エレクト 大塚省治 ◇副会長 山田 満 ◇幹事 野田義広 ◇クラブ会報委員長 鈴木宣宏

令和5年9月6日(水)

第1515回(当年度第8回)例会

本日のプログラム

会員卓話

「クラブ管理運営委員会の

一年の活動方針」

クラブ奉仕委員長 小島三男君

第1514回例会(当年度第7回の記録)

□令和5年8月23日(水) 18:00～19:00
□会場 一宮商工会議所ビル3Fホール
□開会の点鐘 内田会長
□ロータリーソング「それでこそロータリー」
□ゲスト 青山美香子様(修文学院高等学校IAC顧問)
大田美月さん(会長)松岡みなみさん(副会長)
柴田采芽さん(青少年交換学生)

□会長挨拶

内田泰潤徳



毎日、大変暑い中皆さんお元気で
しょうか。

さて、7月26日～8月2日オース
トラリア海外研修に修文学院高等学校
インターアクトクラブより3名の方が
参加されました。今日の例会では、参
加された2名の生徒さんに研修内容を
発表して頂きます。

また大成高校3年生 柴田采芽さんがフランスに一
年間交換学生として留学されてましたが、7月26日
に帰国されました。本日は、ご本人から留学生活の話
をして頂きます。

いつも思うことですが、ロータリーでの行動の中で
私達がこのような青少年の方々に奉仕する事により、
又は他人に奉仕する事により自分のストレスが軽減さ
れ気分が良くなり、自分自身のメンタルヘルスの向上
と幸せになると思ってます。

□ニコボックス(ABC順)

☆秋田敬治君 修文IACのメンバーの皆さん、本日
は活動報告楽しみにしてます。今日午

9月のお祝い事

♪会員誕生日おめでとう

春木 和美君(19日) 宮田 浩二君(21日)

長屋 慎二君(21日) 鵜飼 俊光君(23日)

♪会員配偶者誕生日おめでとう

長屋 光子様(25日) 秋田 タ子様(28日)



9月1日 一宮市市政施行 102周年記念式典にて
旭日小綬章を受章 長谷川正己君

後から郡上八幡へ冬のスキーのベース
キャンプの下見に行ってきました。

「帯に短し、たすきに長し」中古物件
はなかなか難しいです。

☆伴 卓樹君

例会に出席できたので。

☆小島三男君

今年は毎日暑いですね。お体を気をつ
けて活躍して下さい。

☆松前憲典君

本日は、修文学院インターアクトクラ
ブの活動報告をお聞き致します。イン
ターアクトクラブは海外へ行って勉強
して下さい。

☆松岡正浩君

皆様、お元気でお過ごしですか？私は
元気です。

☆宮田浩二君

インターアクトクラブ修文学院高校の
皆様、本日は活動報告よろしくお願
いします。

☆西岡剛男君

例会に出席できたので。

☆野田義広君

修文学院高校インターアクトクラブ顧
問青山先生、生徒の大田さん、松岡さ

☆大塚省治君

ん、海外研修報告宜しくお願ひします。
毎日暑いすね。皆さん、お体に注意
してお過ごし下さい。

☆佐藤祐造君

久し振りに例会に出席できました。

☆鈴木宣宏君

例会に出席できたので。

☆内田泰潤徳君

修文学院高等学校 I A C の皆様、本日は
例会にお越し頂きありがとうございます。
活動の報告をよろしくお願ひします。
又、青少年交換でフランスに行
っていた柴田采芽さんお帰りのさい。
楽しかったですか？

☆山田秀代君

秋田さん、先日は大変お世話になりました。
ありがとうございました。

☆山田 満君

例会に出席できたので。

□青少年交換学生 フランスより帰国挨拶



青少年交換学生 柴田采芽さん（大成高校3年）



一宮中央ロータリークラブの皆様こんにちは。本日はこのような
お時間を作ってくださいありがとうございます。
ロータリー青少年
交換プログラムでフランスに派遣
していただきました、柴田あやめ
です。本日は私のフランスでの経
験を少しだけお話しさせて頂こう
と思っております。

まずフランス留学に行ったと言
うと決まって聞かれるのは、なぜ留学に行ったのか、そ
してなぜ英語圏ではないフランスに決めたのか、という
ことです。海外に行きたいと思うようになったのは私が
中学生の時です。学校に来た留学生と言葉が通じず、悔
しい思いをしたことをきっかけに、なにか自分から行動
を起こさなければと思い留学を決意しました。新しい言
語を学ぶことができる場所へ、そして日本とは、文化も、
国民性も、何もかもが違う場所へ行きたいと、フランス
への留学を決めました。

そして出発当日、私のことを誰も知らない場所へ、ひ
とり旅立つことへの期待を抑えきれずにいました。
しかし同時に、初めての国、はじめての言語、そして初
めてのホームステイ、空港に到着した時は緊張や不安で
いっぱいでした。

しかしそんな気持ちもすぐに晴れました。ホストファ
ミリーは私を一人の留学生としてではなく、本当の娘の
ように迎え入れてくれました。私のお気に入りの時間は、

ファミリーとテーブルを囲んで、今日は学校でこんなこ
とがあった、と話す夜ご飯の時間でした。言語が少しず
つわかるようになってくると、会話も弾み、同じタイミ
ングで笑うことができるようになります。これが、留学
に来てよかったと一番感じる瞬間です。

しかし英語圏ではなくフランス語圏を留学先に選んだ
私にとって、言語の壁は思っていた何倍も高いもので、
学校の先生からまだ理解できないのかと言われてしまっ
たこともありました。申し訳なく、やるせない思いでいっ
ぱいでしたが、それをバネに勉強に励みました。
ホストファミリーの家にはフランス語の単語が書かれた
付箋がそこらじゅうに貼られ、放課後には毎日ホストファ
ミリーにフランス語を教えてもらっていました。
到着したばかりの頃は挨拶程度しか話せなかったフラン
ス語も、ホストファミリーや友人たちのサポートのおか
げで、今では問題なくコミュニケーションを取れるよう
になりました。

フランス語が話せるようになったことで、より多くの
クラスメイトとも話すようになりました。私が日本人だ
からという理由で私に会いたいと言ってくれる子にも何
度も出会いました。日本に行くのが夢だから、日本語を
教えてほしいと頼まれることもよくありました。ロータ
リークラブのオリエンテーションでは、12カ国から集ま
った留学生たちと交流し、今では世界中に自分の居場所が
あるように感じます。

2年前、コロナウイルスの影響で一度このプログラムが
延期となり、このまま継続して参加するか躊躇っていま
したが、一宮中央ロータリークラブの皆さんをはじめと
する多くの方々の支えで継続することを決めました。あ
の時辞退しなくてよかったと心から思います。

フランスで多種多様な人種の方と出会い、さまざまな
考え方を知り、刺激のある毎日でした。私が今まで当た
り前だと思っていたことがそうではなかったり、フラン
スに行かなければ一生することも無かったであろう経験
もしました。16年間住んだ日本を離れ、また新しい視点
から世界を見れたこの1年は、私の人生のターニングポ
イントになりました。



留学から帰ってきた今、この1年間の経験を通して自分
の夢を見つけられたと感じています。もし日本とフラン
スの間でなにか問題が起きた時、私は友人やホストファ
ミリーにどんな顔をして会えばよいのかと思うようにな
りました。ロータリー青少年交換プログラムでは私たち
派遣生のことを親善大使と呼びます。私の夢はまさにこ
れで、日本とフランスを繋ぐ存在になることです。

この1年間多くの方々の支えで、私は新しい夢を見つ
け、数えきれないほどの新しい挑戦をすることができま
した。このような機会を与えてくださった一宮中央ロー
タリークラブの皆様にもう一度感謝申し上げます。
ありがとうございました。

ロインターアクトクラブ活動報告



修文学院高等学校インターアクトクラブ
会長 大田 美月さん（3年）
副会長 松岡みなみさん（2年）

いつもご支援頂き、そして本日は例会にご招待頂き、ありがとうございます。

活動報告



毎月行われる例会で活動報告や今後の予定の確認をしています。自分たちで決めたテーマに沿ったスピーチや、グループで発表する研究発表をしています。ロータリアンにアドバイスして頂いたことを次回に活かせるよう心掛けています。

年次大会では、ユニバーサルデザインについて発表しました。自分たちが校内掲示用に作成した過程を劇で発表したことも楽しい経験となりました。ボランティア活動として、佐久島クリーンアップ、ワールドフード、高齢者や障害者等の施設での活動を行いました。コロナ禍でほぼ活動できなかったボランティアが再開されたので、今後は更に積極的に活動していきたいです。



オーストラリア マウントクーサにて
松岡みなみさん、大田美月さん、栗田翔平君（1年）

海外派遣研修

1日目は出発式後、成田空港までバスで向かい、飛行



機で8時間、ゴールドコーストに到着しました。2日目はアボリジニについて学びました。ホームステイについてオリエンテーションを受けた後、待望のホストファミリーとの対面を果たしました。3日目はUILでオーストラリア固有の動物や食べ物の授業を全て英語で受けました。お菓子を試食するという非常に美味しい授業体験でした。

4・5日目は各ホストファミリーと過ごしました。

- ・ピクニックではマザー手作りの美味しいランチを食べながら、たくさん会話をしました。スプリングフィールド湖にはルームメイトと2人で出かけました。簡単には湖へ行けませんでした。2人だけでたどり着けたので、達成感がありました。（大田）

- ・映画館に連れて行ってもらい、『バービー』を見ました。スピードが早くて全てを聞き取ることはできませんでしたが、内容は掘めたので外国で初めて見た映画を楽しめました。（松岡）

- ・ゴールドコーストのビーチに行き、現地の人とビーチバレーをしました。一見銅像にしか見えない人に話しかけ、一緒に写真を撮りました。その写真は貴重な1枚となりました。（栗田）

6日目はコアラやカンガルーを間近で見ました。UILキャンパスで最後の授業を受け、卒業証明書を受けました。最終日はホストファミリーとの別れが寂しくて仕方がなかったです。オーストラリアに必ず戻ってくるという思いを胸に、ゴールドコーストを旅立ちました。

人生の中で最も濃厚な時間を過ごせました。海外での貴重な経験をする機会を与えて頂き、ありがとうございました。（修文学院高等学校 大田・松岡）



会員数はクラブの健全さを表すものなのか



先月8月は「会員増強・拡大月間」であり、その月間に合わせて毎年当地区では「会員増強セミナー」を開催しています。その「会員増強セミナー」を終えての感想を述べさせていただきます。

開会時に、「73、124、63、14」という数字が発表されました。何の数字が皆さん分かりますか。この数字は過去4年度の当地区における会員減少数字です。この減少数字を皆さんはどう感じますか？コロナ禍が沈静化するに従い減少が減ってきていると誰もが思うと思いますが、どの様な背景があったとしても増えることなく減少している事実を真摯に受け止めなければなりません。

23年7月1日時点での世界のロータリアン1,202,945人で昨年の同時期に比べると36,614人の増加であります。しかし、日本34地区の合計数は減少傾向にあり、前項で述べたように当地区も減少しています。やはりロータリーにとって憂慮すべき事項であると言わざるを得ません。では、何のために会員数を増やすのか、単純に寄付事業の為だけではありません、会員が多くいるから「良いクラブ」、少ないから「悪いクラブ」と決めつけることはできません。それぞれのクラブには培ってきた文化があります。その文化を継承し安定したクラブ運営をするために必要な会員数を把握することが重要ではないでしょうか。また我々ロータリアンはロータリーの魅力もロータリーの存在価値も解っています。それを一人でも多くの人に伝える事も我々の使命ではないでしょうか。

当日、ある会員からクラブの実情として聞かされた事を紹介します。所属しているクラブの会員が自身の息子を所属クラブに入れたがらないというのです。親子が同じクラブに所属したくないという気持ちなのか、どうせ入会するのなら他のクラブの方が息子のためになると思っているのかは分かりませんが、何か寂しさを感じました。その会員曰く、会員数は「クラブの健全さを表しているのではないか」というのです。

クラブの実情を4つ挙げてみました。

①「次代に続く活性クラブ」

会員同士が切磋琢磨・自己研鑽し充実した例会と活発な奉仕活動

②「居心地のよいクラブ」

活動は例会主体、仲間意識が高いものの地域実情には関心が薄い

③「体面維持型クラブ」

ヒエラルキー・コントロール 義務感や付度ばかり

④「限界クラブ」

余計なことは言わない・新しいことはしない前例踏襲型さて、あなたのクラブはどうでしょうか、多分②が多いのではないのでしょうか。会員増強を考える上において、クラブの実情を素直に正直に考えてみるのも一つの視点ではないかと感じた「会員増強セミナー」でした。

国際ロータリー第2760 地区
2023-24年度ガバナー 酒井法丈
豊田ロータリークラブ所属

9月 基本的教育と識字率向上月間に寄せて

今日の世界は、基本的な識字力がない青少年が約1億300万人もあり、発展途上国を中心に学校に通っていない初等教育期の児童が数多くいます。そのうち、推定50%は紛争に巻き込まれている環境にいます。

日本では読み書きができる事は当たり前になっていますが、地球上では沢山の人がそういう環境になく、人間としての文明を享受出来ずに暮している人が数多くお見えになります。ロータリーでは、全世界のすべての人達が読み書きのできるよう、識字率が向上するように、様々な活動をしています。

当地区においても、過去数年に渡り東南アジアを中心に発展途上国へ支援の手を差し伸べております。水と衛生・識字率向上・環境をキーワードとして、へき地の村に学校の施設を寄贈したり、教科書や鉛筆、ノートなどを寄贈したり、植樹をしたりして参りました。

また、社会インフラの整備に井戸の提供をして簡易水道なるものを寄贈し、子供たちから水くみの重労働から解放し、生活環境を大きく変化させて学習する機会の提供をしています。識字率を向上して頂く事により、今まで以上により楽しい事、実益に結び付く人生の構築につながる一助が大切だと考えます。

本年度より、そういった国際奉仕活動に於いては各クラブが様々な情報を収集して頂き、各クラブが、グローバル補助金や、地区補助金を有効活用頂きロータリーの活動として「基本的教育と識字率向上」を実施頂ける事をお願い致します。

地区国際奉仕委員長 渡邊 寿也（豊田RC）



出席 報告	会 員 総 数	37名	
	出席会員数	24名	64.86%
	他クラブ出席数	0名	
	修正出席率	前々回 (8/2)	100%

次回2023年9月13日（水）の例会予定



クラブフォーラム
サッカー大会打合せ